

大地の美術館「小岩井農場」物語 小岩井農場の魅力をまるごと楽しく体感！

小岩井農牧(株) 観光部 農業全体活用マネージャー

たかやま つとむ
高山 勉

写真1 上丸牛舎

ようこそ、小岩井農場へ

読者の皆様、はじめまして。小岩井農場でガイドを務めております高山勉と申します。この紙面を頂戴して、小岩井農場で現在開催している体感プログラム「小岩井農場物語」についてご紹介いたします。

多くの方が抱く「小岩井農場のイメージ」は、「乳製品が有名」ということだと思います。地元である岩手県民の方だと「子供が小さい頃に連れてきた」「遠足で来たことがある」「乳製品はちょっと高いけど美味しい」と仰る方は多いですが、小岩井農場はそれだ

けではありません。

小岩井農場は観光牧場ではなく生産農場であり、観光用に公開しているのはごく一部のみ。国内最大級の民間総合農場であることは意外に知られていません。小岩井農場の創業は1891年(明治24)で、2016年で125周年という歴史ある農場です。その面積は国内最大級の3,000ha(900万坪)。ちなみに、観光エリア「まきば園」の面積は40ha、農場全体の約75分の1の面積しか一般に開放していないことになります。生産現場は原則非公開になっているので、皆様をご存じないのは無理もないのです。



写真2 井上勝



写真3 小野義眞
(おのぎしん)



写真4 岩崎彌之助
(いわさきやのすけ)

小岩井農場誕生

1888(明治21)年6月12日、明治政府の鉄道庁長官、後に鉄道の父と呼ばれた長州藩出身の井上勝(写真2)が岩手山南麓の広漠たる原野に通る網張街道を馬車で通りがかりました。東北線の線路敷設工事を視察するために訪れたのでした。しかし岩手山南麓に広がっていたのは360°地平線が見渡せる広大な原野。同じ馬車に乗っていた当時の岩手県令(知事)石井省一郎に「ここは誰の土地なのか」と尋ねたところ、県令から「ここはお国の土地、官有地でございます」と答えが返ってきました。



写真5 牛の放牧風景(明治時代)

それを聞いた井上勝はある思いに至ります。「文明開化のためとはいえ、鉄道敷設のために潰した田畑は数知れず…。官有地が広大な原野のまま放置されてあるならば、開墾して農地にすることが国家公共のためになり、またそれは自分が手がけるにふさわしい事業なのではないか」と。普通であれば壮大な夢物語で終わってしまうところですが、井上勝は諦めませんでした。東京に戻った井上は日本鉄道会社副社長の小野義眞(写真3)を訪ねました。出資者として協力を要請したかった岩崎彌之助(写真4)と同郷の土佐藩出身であり、かつ小野は三菱の創業者岩崎彌太郎の右腕として三菱を支えた人物の一人だったからでした(岩崎彌之助は彌太郎の実弟で第二代三菱社社長)。小野が井上と岩崎を引き合わせ、井上が岩手で見てきた原野の話をも彌之助に伝えたところ、彌之助も賛同して出資を決めました。小野義眞が保証人、岩崎彌之助が出資人、そして井上勝が農場主となり開墾がスタートしたのが1891(明治24)年。名前は三氏の頭文字を並べて「小」「岩」「井」農場となりました。

た(写真5)。

現在の小岩井農場

もともと広漠たる原野だったこの地は、先人たちによる100年以上続いたゆまぬ努力により、2,000haの山林(ほぼすべてが植林)や、今でも土壤改良が継続されている630haの牧草地などに変わりました。「安全、安心、素性明らかプラス質の高さ」を理念とし、「環境保全・持続型・循環型」の事業運営を目指して酪農事業、山林事業、種鶏事業(ヒヨコの生産)、たまご事業、環境緑化事業(造園)、観光事業などを展開しています。小岩井農場にいる牛たちは約2,200頭。みんな小岩井農場で生まれ育った牛たちです。農場内で育てた牧草やトウモロコシをエサとして与え、農場内で搾乳・加工・販売まで一貫して行っています。牛乳を生産するためには先ず「土づくり、草づくり、牛づくり」が大切です。それらを含め、農場で一貫して取り組むことによって「安全、安心、素性明らかで質の高い」製品づくりを行っています。山林で切り出される丸太も、植林や手入れの記録がすべて残っている素性明らかなものです。現在は農場全体が鳥獣保護区となっており、ニホンカモシカやホタル、ニホンサクラソウやクマガイソウなど、数多くの動植物のすみかとなっています。過去は荒涼たる原野だったこの地が、現在では生物多様性が年々高まっている印象を受けています。「大地の美術館」と呼ぶにふさわしい環境が広がっています。

小岩井農場の文化財と宮澤賢治

小岩井農場はとてもエコな農場です。建物などの財産も、使えるうちはとことん直して使い続けます。農場本部事務所や牛舎など9棟が国登録有形文化財(岩手県の第1号～第9号)になっていますが、そのうち6棟は今だ現役で使用され続けています。宮澤賢治は中学2年生の時に遠足で小岩井農場を訪れて以来、何度も訪ねては創作メモを取り、心象スケッチ「小岩井農場」「遠足統率」、童話「耕耘部の時計」など数多くの作品に登場させています。

さて、前置きが大変長くなってしまいましたが、小岩井農場をまるごとお楽しみいただける体感プログラム「小岩井農場物語」についてご紹介します。小岩井農場物語は「第8回産業観光まちづくり大賞」(主催:日本観光振興協会)で「観光庁長官賞」、そして「第10回エコツーリズム大賞」(主催:環境省・日本エコツーリズム協会)で大賞を受賞しています(p.28を参照)。従業員がガイドとなり、普段は非公開となってい



写真6 ガイド付きバス「小岩井農場めぐり」



写真7 旧網張街道



写真8 鶴ヶ台牛舎

る小岩井農場の生産現場をご案内しています。歴史ロマンや先人たちの苦勞の痕跡、循環型農業など未来へとつながる現代の取り組みは非公開の生産現場だからこそ伝わる魅力です。

ガイド付きバス「小岩井農場めぐり」

小岩井農場物語の核となるプログラムで、農場従業員がバスガイドとなり、貸切バスで農場内をくまなく巡ってご案内します(写真6)。知られていない小岩井農場開設のきっかけとなった「旧網張街道」(写真7)や小岩井農場酪農発祥の地「上丸牛舎」(写真1)など歴史を体感していただくばかりでなく、平成になって作られた最新式の大規模牛舎「鶴ヶ台牛舎」(写真8)や東日本

最大級の搾乳施設、家畜たちの排泄物を周辺から出される食物残渣とともに牛糞堆肥として再資源化し、さらにバイオガスによる発電も行う産業廃棄物処理施設「バイオマスパワーしずくいし」(写真9)、持続可能な森林経営のモデル林である「法正林」(写真10)など“現在も挑戦し続ける農場”をご案内しています。特に訪れる方々から高い評価をいただいております。皆様からは「農場の広さを実感して驚いた」「歴史だけじゃなくて今もいろいろやっているんだな」「知らないことばかりだった」などのご感想をたくさんいただいております。



写真9 バイオマスパワーしずくいし



写真10 法正林



写真11 トラクターバスの「自然満喫ツアー」

トラクターバスで行く「自然満喫ツアー」

小岩井農場物語で最も人気のあるプログラムです。「小岩井農場めぐり」バスは小学生以上対象ですが、トラクターバスは未就学児も乗車できます(写真11)。20名程度乗ることができる手



写真12 100年の森



写真13 農場内を流れる沢

づくりの客車をトラクターが引っ張って、まきば園に隣接した「100年の森」(写真12)や広大な牧草地へ向かいます。森林浴を楽しみながら伸びやかな景色の中で記念写真を撮ったり、沢沿いを散策して今や貴重となった淡水の二枚貝カワシンジュガイやサワガニを観察したり(写真13)。子供たちはモリアオガエルやオニヤンマを見つけると大はしゃぎです。ただ、「自然に触れ合う」だけでなく、「どのようにして、農場の自然環境が育まれて来たのか」、植林の歴史も体感していただくようになっています。

小岩井農場自然散策

乗り物に乗って行くよりも、のんびり歩いて自然に親しみたい方に好評のウォークイベントです。通常は1時間、開催日限定で2時間の特別編も行います。冬はスノーシュー体験や雪原での星空観望、春はミズバショウやサクラソウ、野生ランなどの山野草観察、夏はモリアオガエルやホタル、秋は産卵シーズンのサワガニ観察を行います。地元の方を中心に県外からもご参加いただいています。また、「自然再生プロジェクト」と題してボランティアを募集し、野生ランの移植やホタルの住める森作り、アメリカザリガニの駆除作業などをイベントとして行っています。

上丸牛舎の歴史散策

小岩井農場酪農発祥の地である上丸牛舎にはレンガサイロなど6棟の登録有形文化財があり、牛舎では約300



写真14 上丸牛舎の歴史散策

頭のお母さん牛や子牛たちが暮らしています。日本の酪農と乳業事業に貢献してきた歴史を垣間見ながらガイドがご案内しています。ホルスタインはとて好奇心が強く、私たちが牛舎のそばまで行くと牛たちも人間に興味津々。くりっとしたまん丸の大きな目で見つめられます。体は大きいですが、とても愛らしいのです(写真14)。

小岩井農場プレミアムツアー

唯一、1泊2日のツアーとなっている、小岩井農場物語で最も贅沢なツアーです。小岩井農場開設のきっかけともなった、千年の秘湯網張温泉に泊まり1日目は専用車で小岩井農場めぐり特別版、2日目は自然散策(ウォーク)特別版を各専門ガイドがご案内します。時間の制約なしに、各見どころではすべて下車、天然冷蔵庫(写真15)など一部の施設は特別に内部もご案内し、まさに小岩井農場を丸ごと満喫していただけるツアーです。

通常観光客に開放している観光エリア「まきば園」や「上丸牛舎」だけで

なく、普段非公開となっている生産現場に眠っていた魅力もまるごと体感していただけるのが「小岩井農場物語」です。かくいう私も、じつは観光客として小岩井農場を訪れたのをきっかけに岩手に移住してきました。宮澤賢治の心象スケッチ「小岩井農場」を読んで農場の存在を知り、まきば園や上丸牛舎、牧歌的な農場内の風景を眺めて“こんないいところだから賢治さんも数え切れないほど訪ねて来て、作品にも残したのだな”と実感したのを今でもよく覚えています。各ガイドがそれぞれの見方・感じ方で農場の魅力について感じたことを、プログラムを通してお客様にお伝えしています。同じツアーに再び参加しても、その時のガイドによって内容が変化する、そんなガイドとの交流も大きな魅力の一つになっていると感じています。四季それぞれに景色や雰囲気が変わり異なる東北、岩手県の小岩井農場にぜひお越しいただき、私たちとともに小岩井農場をまるごと楽しんでみませんか。

小岩井農場HP <http://www.koiwai.co.jp>



写真15 天然冷蔵庫